

復興計画への提案－1

平成23年7月17日
南相馬市復興委員会委員長
高橋 亨平

今、南相馬は全てが極めて困難な状況にあり、医療1つをとっても、理不尽な状態の中から、何とかここまで来たという感がありますが、以前のように元に戻ることは出来ません。そして又、人口構成を考えると、殆どが高齢者であり、このままの状況が続くと、小さな街になるのは明らかであります。主産業である農業、漁業、中小企業、商店も廃業、撤退が相次ぎ、若者の職場も消滅しています。この様な苦しい中、市民の皆様の英知と血のにじむ様な努力をお願いしなければ復興はかないません。これまで、何もしなければ何も起らないということは、いやというほど知らされました。国も、県も黙っていれば現状維持でほって於かれます。この様な経験から、市民自らが奮起し、勿論、外部からの協力も積極的にお願ひし取り入れ、地元と合作で数多くのチームを作り、学ぶべきは学び、いずれは地元企業へと発展させたいと考えております。

そして、苦しみを希望に変え、南相馬の復興に参加したことを、いつか誇りと思える様な、世界的なメッカにしようと考えております。

1) 緊急を要する事項

希望とは子供達である。

子供達が何としても、生活できる環境をつくる。

- 空間線量等、あらゆる物の線量を測定出来る機材を持つプロチームと地元チームとの共同作戦で、学校、幼稚園、保育所、線量の高い自宅、等緊急に測定する。資料は必ず資料館に残す。要望があれば市外でも何処へでも遠征する。これを南相馬市発の企業へと発展させたい。
- 除染線チームの養成、測定チームとの指導連携をとりながら、除染作業を行ない、成果を確認し、処理は全てその敷地内で行い、埋没方法も考案し、その場にはひまわりなどを植えるよう指導する。除染後は必ず成果データを資料館に残す。このチームも要望があれば何処へでも遠征し、南相馬市発の企業へと発展させる。勿論、両方合わせた企業としてもよい。

- 室内の除染線チームの養成、設計士、インテリア業者等と相談し、室内全ての場所の線量を測定、一番長くいる場所の部分の除染、家全体の除染等を研究して如何にすれば低下できるかを定める。クロス、カーテンの素材の研究改良も含める。南相馬市にての研究工場を誘致できればする。

線量の多い環境の子供達や、内部被曝の高い子供のための小さな学校（塾）を特区として認めてもらう。

- 実験的学校、全寮制、鉄筋コンクリート作り50—60人収容、治療的学校、入校時ホールボディカウンターにて検査、3—6カ月入寮時、退寮時も検査する。校内は0.2マイクロsV以下とし、土、日は自宅で過ごしても良い。2校（小学生用、中学生用）位は欲しい。希望によっては長期入学もあり得る。小型の体育館も作り、そこも0.2マイクロsV以下に保つ。
- 高線量地区に住む子供のいる家族が引越し、限りなくゼロに近い線量の家屋を南相馬市内に作る。出来るだけ南相馬市民は南相馬に住めるようにする。勿論その他の地区の避難民も受け入れる。
- 郡山の日大工学部で研究している“ロハスの家”自然エネルギーだけで生活できる家の研究者及び先生方に、復興委員会から要請し、南相馬に研究所を作り“ロハスの家”+空間線量が限りなく0に近い家を開発する。要請があれば検討するとの返事あった。

被曝医療の検査機器の充実

原子力安全委員会は安全対策の中に、住民の健康を守る為の対策は全く存在しなかった。8時間以内に検査しなければならない、ホールボディカウンターは全国に109台あったが、何の連携も機能もしなかった。いくら交渉しても影の圧力が必ずかかっていた。尿検査も国内では出来ずフランスに送らねばならなかった。血液検査は国内では不可能であった。世界に恥ずべき国である。

- 市立病院に最新型の1人1分で出来る、しかも、小さな子供でも検査できる、最新型のホールボディカウンターを至急購入して欲しい。これは超緊急事項である。島根県から借りたバス式の場合は、小さな子供は検査出来ず、不安定で時間がかかり、しかも返却しなければなりません。
- 尿中のセシウムを検出できる企業、検査機器、血液セシウム量の検査機器も何とかして連携、あるいは購入して戴きたい。今問題になっている牛も、尿検査が出来れば、簡単に検出できた。
- 市民のあらゆる食べ物、水、土壌等の放射線濃度を検査する機器等、食品の安全性の管理を徹底し、実験農場、水耕栽培などによる野菜の検査も直ぐに出来るようにしたい。これも緊急事項である。
民間企業としても良い。
- 個人線量計、フィルムバッチ、その他の線量計も生産に時間がかかり間に合っていない。日立アロカ、サードウエーブ、堀場製作所等お願いしているが生産が間に合わない。山形の会社が南相馬ブランドの命名で1000個、位提供できそうとの話もあり、是非、南相馬の名前をつけ“南相馬1号”等という名前で、復興資金を含むという形をお願いしている。いずれの会社にも、南相馬に工場を作り、南相馬ブランドで、世界に販売して欲しいと依頼しているが、ラインを作るには1年以上かかるとのことである。しかし、市の情熱が無ければ不可能である。

2) 中長期的復興計画事項

この地域には世界に冠たる研究所を設立し、世界中から学者、研究者が集まる都市とし、研究から発生した事業は、当市に中小企業群を教育養成し、発展させたい。さすが、南相馬市と言われるような市にしたい。その為にはスタートとして全てのデータを保管するデータセンターから始めなければならない。全ての震災時の写真、子供達の絵、作文、大人たちの体験文、避難や苦勞談、被曝医療のデータ等の小さなデータが、スタートとなる。この土地を復興する為のあらゆる知恵、研究、子供の環境、医療、衣、食、住、環境、エネルギー、空気、土地、全てが今後の世界スタンダードとなることを自覚してほしい。

建築（住環境）

- シェルターの的、普通の家を開発、建築素材の研究、実験ハウスの製作、鉄筋なら今でも可能。鉄骨でも外壁を工夫すれば今でも可能。検証済み。
- 既存の建物は、空間線量を内層のみの素材で開発し、改善きないか、素材、繊維の研究。

環境エネルギーの研究開発

- 南相馬電力会社の設立、ソーラー、バイオマス、今回の津波のエネルギーを利用し、人口式リアス式海岸をつくり、両手を広げたような所に、波のエネルギーを受け止め、その先端にピストン、スクリュウ等のエネルギー変換率の良い装置を作り、永遠の波動エネルギーを利用した発電所等、圧電素子を数珠状に繋ぎ水圧を利用して海に放り込むだけで発電できる。
- 菜種の油の生産、種にはセシウムは入らない事を利用し、バス等の燃料としたりその他の利用法等を考案する。
- ひまわりの種からの油の利用が出来ないかどうか研究する。

農業

- 水耕栽培による野菜工場の研究、LED ライト、ソーラー発電、ひまわりの油や、菜種の油等で燃料補充、既に完成されている物もあるが、レタス等とにかく実践してみる。野菜不足の子供達を安全な野菜で地産地消出来ないか。この分野も企業化出来る。
- 土壌を除染して、改良、簡易シェルターを作成、実験農園を小規模で行い農作物の内部線量を計りながら実践していく。シールド工法で山の土を攪拌し線量を薄める。

中途ですが、今回は、思いつくままに書きましたが、やる気のあるチーム作りが、全てだと思うし、何か1つでも進めば、意義があったと思う。でも何も進まない会での話し合いは、時間の無駄で、私は辞任したい。7月17

日の会でこの案は没にされた。その翌日、体調のこともあり、市長に話し
辞任した。民間の力で側面から協力は続けたいと思っている。